

月の館

信濃観月文庫

通信

麻績村
発行 / 信濃観月苑

長野県東筑摩郡麻績村麻 8059-2

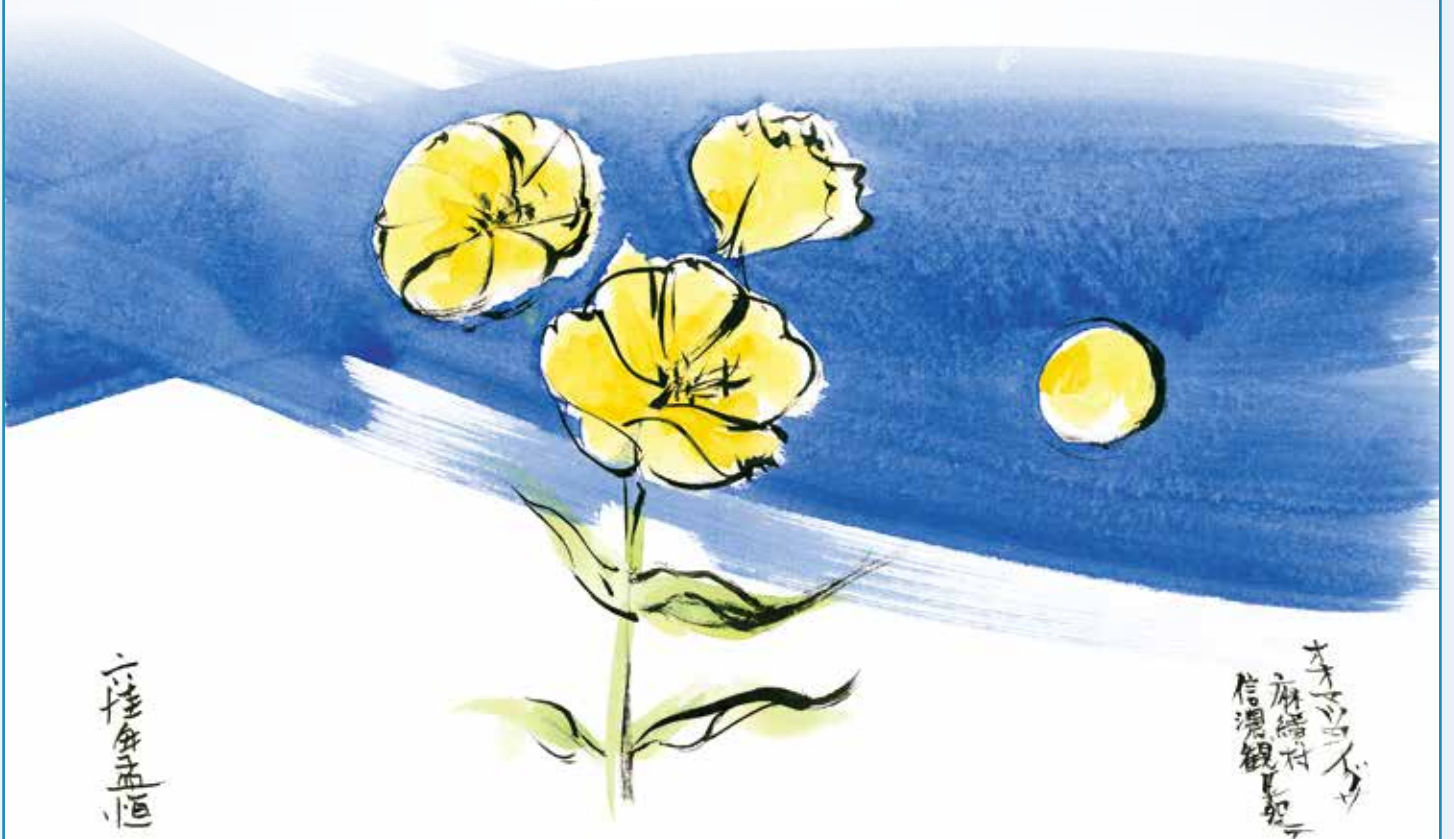
TEL・FAX (0263)67-3933

第26号

月自来自去

月自ずから来たり

自ずから去る



信濃観月

麻績村
信濃観月苑

白糸の滝

山崎 樹彦

私たちの糸をつくっている糸屋さんは、座繰り糸で夏物を創ってみたいと思い立ち、いくつも試作品をつくったそうです。その土台の上で、乾繭でやや太目の未練の節糸を使い、春夜叉で濃く染め、蟬の羽を思わせる反物を作ったのが私たちのところの最初の夏物です。この透けて見える布は色として空間を意識したい私たちにとっては、とても魅力的なものでしたが、もうちょっと細い糸でやわらかい物もつくってみようという気になりました。糸屋さんに相談すると、生練の座繰りで湯練りにしたものでやってみましょうと言われました。繭は一度乾燥してしまうと、セリシンも変質して固着してしまいます。生練きのもものは、精錬を軽くしてもさらっとセリシンが落ち、その分、絹の傷みも少なく、光沢のある美しい糸になるのだそうです。白

度の高い群馬200の良い繭を使った生練座繰りにちよつと玉繭をくわえて細く練いた

糸を湯練りだけで仕上げました。ある程度、固さを残した白くて光沢のある糸で、薄めできめの細かい少しやわらかめの夏物になるだろうということでした。

その糸を見せられた時、長く心の中にしまい置かれていた風景が目には浮かんできました。軽井沢にある白糸の滝の景色で、私は夏の早朝に幾度か訪れています。ほぼ垂直に切り立った低く広い崖から、地下水がにじみ出て、いく筋もの細い水流となって一面に滴り落ちていくのです。水と土の原点を思わせる、その静かな滝が朝霧や弱い陽の光の中で好ましく思い、心に刻み込まれていたのでしょうか。生練座繰りの糸は1本1本がとても美しい物です。高い技術と手間をかけて練かれたものを糸屋さんがその良さを最大限生かすよう製糸するので、その糸が私の中の白糸の滝を呼び起こしてくれたのです。早朝のその景色のイメー

ジは白とグレーの世界です。そのグレーは輝くような銀鼠、滝の水流をあらわす縦糸を白と銀鼠で1本毎に配し、糸の1本1本が生かされてしかも周りに溶け込むような、土からにじむ水が大気にも広がっているような、そんな雰囲気、早朝の世界をあらわしたいと思ったのです。緯糸は少し濃い目の銀鼠が良いと思いました。

しかし、その清澄な銀鼠になかなか適した染料がありません。

せん。10月のクサギのガクは鉄媒染で青みのあるよい銀鼠が染まりますが、この年はよい状態のものが手に入りませんでした。9月、10月のキブシの2番液も、半練りでセリシンが残る染まりやすくなっている糸には、わずかに黄味がつき、イメージがあいません。11月のハゼも紫味や黄味が邪魔をします。かつてきれいな銀鼠を染めた記憶のある冬場のシラカシも、紫味や黄味をどうしても別にする事ができませんでした。そんな

中、キンモクセイはどうですかと糸屋さんが言いました。家にある大きな木で、きれいな銀鼠を染めた事があるというのです。10月のことでした。早速試験布で染めてみると黄味やページユの色が強く、とても使い物になりません。やはり季節の違いだろうという事で冬を待つことになりました。1月末に枝を切ってもらって葉と枝に分けて試験すると、10月と同じような色で黄味や薄茶が目立つのです。2ℓの水で30gの染料を煮出した試験でしたので、もしかすると多すぎるのかなと思います。2ℓに20g、また10gと変えて試すと、更に



山崎澄子画の金木犀のスケッチ

うのです。一般に染料を多くすると色は濃いけれども濁りますし、五倍子や、ヤシヤブシ、キブシでは、染料をたくさん使うと染まらない場合があります。草木染の面白さとして多くの人に紹介してきましたが、澄んだ銀鼠を得るのに逆があるとは思いませんでした。

葉よりも枝で、しかも量を多く使うと銀鼠になるようです。試験布の結果とその後何度かの経験からキンモクセイの銀鼠染めの染液の取り方は次のようになりました。2月のキンモクセイの枝から葉を除き、押し切りで細かく



ぐんま200の牛蒡座繰り糸の反物
(経糸が金木犀の銀鼠と白糸、緯糸が金木犀の銀鼠)



白糸の滝の型染
(松煙とラックの染め)

草木屋の百色

五倍子

所を好み、ヌルデノミミフシの飛行距離はたいしたことはなさそうなので、たとえば、谷地から風が吹き上げている陽当たりのヌルデの木、そんなところが、五倍子の多く見られる場所です。

良い状態で採集した生の五倍子で染める色はどの色もとても美しいものです。虫を除き去して染めると茶味も除かれます。微妙な染色工程で赤紫鼠や青紫鼠、白鼠に染め分けることができるのです。

ことに生五倍子の白鼠はなんとも良い色です。乾燥したものでは同じ工程でやや黄ばんで似て非なるものになってしまいます。

10月の初旬、五倍子採りに行った翌日が静かな雨の日で、

五倍子^{ごばいし}はヌルデノミミフシというアブラムシがヌルデの枝葉を傷つけ、その樹液を利用して作り上げたもので、結果としてヌルデの持つタンニン分が濃縮されています。ヌルデノミミフシはヌルデにやってきて、秋には虫こぶをつくり、10月になると虫こぶの中で羽のある世代が生まれて穴を開けて飛び立つのです。穴が開く前が染料として最もよいとされています。そして虫はどこにいくのかといえは幼虫となって冬を過ごすチョウチンゴケの生えているところへ行くのです。

ですから五倍子が形成されるにはヌルデとヌルデノミミフシとチョウチンゴケの3者が必要になります。ヌルデは明るい場所、コケは湿った場



金木屋の試験布



金木屋の小枝

刻んで染料とします。(冬季がよいのかどうかはまだ調べていません。細かく刻むのは染液に色素がより溶け出し易くするためです) 20ℓあたりの水に対して2 kgの染料を入れ、沸騰後5分で1番液を取

が、要は濃く澄んだ染液(黄味の染液です)を取る事です。この液を使い、鉄で処理をして重ね染をし、求める銀鼠を得て、ようやく早朝の白糸の滝の景色に入り込むことが出来たのです。

る、(やや茶味の成分もあるようなのでこの液は使いません) 1番液を取った後の染料に20ℓの水を入れ、沸騰後40分で2番液を取り、これを染液とします。染料の量によって3番液を使う事があります

それを見ながら、よし、今日は縦糸を白鼠で、横糸を青紫鼠での五倍子染めにしようと思われ、着物の銘を「秋雨」とすることに決めて染め始めました。1週間して、また五倍子を取りに行き、2回目の染を終えた時点で、節のある縦糸が所々白く輝き、寒さの増す空気の厚みを緯糸の青紫鼠が背景として抑えて、「秋雨」にぴったりになると確信したのです。

しかし織り上がってきたものは、また別の表情を持っていました。白鼠の節糸が所々押されて潰れたようになって

いたのです。その潰れた感じが雪のように見えるのです。織をお願いしたのは熟練した力のある方ですが、私たちの好む座繰りで節を多くした細い糸を縦にして織ったのは初めてだったそうです。「慣れば、ちゃんと織れますよ」と、この座繰り糸を企画した糸屋さんが織り手を弁護するように言うのですが、私たちはすでに違う世界が入りこんでいました。

「はあ、それも見てみたいですが、これは良いですね、風花ですね」
「秋雨」が、あっさりとした風で運ばれてくる雪風花に変更になりました

が、無地の着物に染料名や色名以外で名前をつけたのは初めてでした。

同時に身近に感じた情景を色に表すことの大変さと大切さ。そして人が関わり、偶然が関わった事で作品となる面白さを感じたのです。

「もう一度、同じように織ってくれと言ってもできないんでしょね」私の言葉にも糸屋さんは黙って笑うばかりでした。

山崎 樹彦 (やまざき たてひこ)



一九五八年 群馬県高崎市生まれ
一九八二年 北海道大学理学部卒
父、山崎青樹の経営する草木染研究所に入所

実務を担当していた叔父、篠崎節に草木染及び草木染型染を学ぶ
二〇一一年 群馬県富岡市妙義町に移住

風土に根ざした草木染の確立に向けて研究、創作を行っている
草木屋代表、草木染伝習所主宰



五感から湧き出る 色彩・デザイン そしてリズム

山口利一

左ページの文章

「私の想い」は、三十年以上前に自らの創作の主張として書いたものですが、現在もなおこの想いは変わっていません。ステンドグラス&ガラスアートを本職として活動していますが、同時に幼い頃から手にしているギター演奏をも続けていて、娘のMAIとのデュオを中心とした音楽活動も同時に行中で、自分の感性を高めるためには、この二つの生業が必

要不可欠なものです。

音楽を創造する上で必要なリズムやメロディーは、同時に工芸作品を創作する時のデザインや色彩とシンクロしてきます。

私のステンドグラスの作品を理解して気に入って下さる方々は、たいていそのデザインの流れの中にリズムを感じるかと評価してくれま

す。そして、その自らの感性に刺激を与えてくれるのが、この信州の山々の自



私の想い

時間、空間、意識の形、水、雲、風、大気
とどまることなく流れてゆくもの、強く弱く、速く遅く
今のこの一瞬がまたたく間に過去の瞬間となり、
決してとどまってはくれない。

そんな果てしなく流れてゆくものに哀愁や敬意を感じて、
その瞬間の意識の形を音楽や芸術として
作品の中に吹き込み、
封じ込むことができるのではないか

自らの創り出す音楽やステンドグラスの作品は主として
そのような流れ去ってゆく時空間や意識の形に対する
憧憬や執着によるものなのかもしれない。

そんな想いを抱きながら

美しい信濃の山々に囲まれたアトリエで
音楽やステンドグラス、
そして人々の、また自らの意識や想いに変化をもたらす
作品達を創造してゆきたいと想っている



然、森羅万象です。
高い木樹の梢から地
上の小さな苔まで創
造主の生み出した多
彩なデザインと色彩
に、時に強くインス
パイアーされます。
また、その反面、人
間が創出した工業的
デザインにも魅力的
なものを感じることに

もあり、この二つの
世界のバランスを基
に自らのステンドグ
ラス等のデザインが
成り立っていると思
っています。「百聞は
一見にしかず」作品
展やコンサートの機
会には是非じっくり
と作品や音楽を見て
聴いて、私の創作の

想いを感じて下さい。
幸い本年十月には、
信濃観月苑での作品
展も開催できること
が決定しており、ま
だ未定ではありますが
がコンサートも同時
に開催できたらと思
っていますので、そ
の際には是非ご覧く
ださい。

ギャラリー一展

江間廣・凡俱樂部作陶展

4月29日^土～5月15日^月

出展／江間廣・陶芸教室会員17名

キルトアート&昭和のくらし展

4月29日^土～5月7日^日

会場／大寄せの間 出展／徳嵩よし江・糸偏塾塾生など

草木屋 草木染展

5月20日^土～6月4日^日

出展／山崎樹彦・澄子 山崎杜人・山崎美季・山崎 梢

藍友禅 橋詰清貫の世界展

6月16日^金～6月18日^日

出展／橋詰清貫

日達れんげ きりえ展「茶室の花 七十二候」

6月30日^金～7月17日^月

出展／日達れんげ

H I J I R I アートエキシビション

7月23日^日～8月20日^日

出展／窪田昭人・久保田優子・アトリエどんぐりのこどもたち ほか

更級花織工房展～あんずのいのちを絵絣に織る～

8月26日^土～8月31日^木

出展／窪田孟恒 協力 永岡真由美

岸田怜作陶展

9月9日^土～9月24日^日

出展／岸田 怜

天山窯 一條隆好作陶展

9月30日^土～10月16日^月

出展／一條 隆好

ステンドグラス&グラスアート展

10月18日^水～10月25日^水

出展／山口 利一

冬期間や空いている間に、お宝展、俳句作品展、草木染の展示をしている事があります

観月苑文化講座

参加者募集中

山口勝人写仏教室

【第1土曜日】

14:00～16:00

会費／前期・後期とも

各5,000円

講師／安養寺住職山口勝人

御詠歌教室【第1水曜日】

13:30～15:30

会費／前期・後期とも

各5,000円

講師／法善寺大屋明子

小林一茶の世界【第3木曜日】

10:00～11:30

会費／月1,000円

(前期・後期とも各6,000円)

講師／「岳」同人窪田英治

継続中。一茶の生涯を辿った後は松尾芭蕉の講座に戻ります

楽茶碗をつくりましょう!

【2回シリーズ】

6月10日^土・24日^日

定員 10名

両日とも1日かけて行います

会費／材料費含め1,500円

講師／天山窯 一條隆好先生

作品は耕月軒に展示いたします

実作者のための俳句講座

【夏を予定 2回シリーズ】

会費／2,000円 吟行会にか

かる費用は実費負担

講師／「岳」編集長 小林貴子先生

を予定しています

を予定しています

第25回月の里俳句作品募集

募集締切 **8月31日** 木

大人 3句一組（何組でも可） 投句料／1,000円
 おおむね小学3年生～中学生 2句まで 投句料無料
 選者／「信濃俳句通信」主宰・佐藤文子
 「黒姫」主宰・神田北童
 「岳」編集長・小林貴子
 「梟」同人・水上孤城

茶室清香亭月釜

松林のなかの茶室にて季節のお点前をお楽しみください。
 時間 10:00～15:00 日時は変わることがあります。
 会費／一席 600円
 点心&お抹茶 2,500円（要予約。3名様以上）

- 4月29日** 土 武者小路千家 亀の香茶稽古の会（松本市）
- 5月21日** 日 裏千家 小山宗道社中（長野市）
- 5月28日** 日 表千家流 清流会矢口社中（筑北村）
- 6月11日** 日 石州流 芳香庵松悠（筑北村）
- 6月18日** 日 表千家流 曙光会中曾根社中（上田市）
- 7月16日** 日 煎茶道黄檗東本流 田中祐鶴（長野市）
長瀬鶴早（中野市）両社中
- 8月 6日** 日 表千家流 鈴木康之（名古屋市）耕月軒を予定
- 8月27日** 日 宗徧流 宮田宗恵社中（長野市）
- 10月22日** 日 裏千家 小林宗智社中（長野市）
- 11月19日** 日 裏千家 島津宗純社中（長野市）

第18回曼陀羅の里 お月見俳句大会

10月7日 土

13:00～16:00
 当日句 2句一組（自由題）
 会費／1,500円
 （投句料・聴講料・懇親会費）
 二組目からは500円
 選者／「信濃俳句通信」主宰・佐藤文子
 「黒姫」主宰・神田北童
 「岳」編集長・小林貴子
 「梟」同人・水上孤城

第24回紅葉がりの茶会

9月17日 日（予定）

受付／10:00（受付終了14:00）
 定員／150名 会費／3,000円（予定）

お抹茶2席と点心席

この日は通常のお茶席、貸館はありません。

講演会

信州の芭蕉・蕪村・一茶

5/14日

14:00 ~ 15:30



場所／月の館大寄せの間

講師 ● 玉城 司

玉城 司 プロフィール

1953年（昭和28年）、長野市生まれ。特定非営利活動法人・信州古典研究所代表。早稲田大学大学院文学研究科修了。専攻は近世俳諧史。江戸時代中期俳諧、女性俳諧、大名文芸について研究中。

【著書】『蕪村句集』（角川ソフィア文庫）。『一茶句集』（同）。『今昔詩歌ものがたり』（ほおずき書籍）など。

みんなで歌いましょう！ 合唱指導とテノール独唱

7/23日 14:00 ~ 16:00

場所／月の館大寄せの間

講師 ● テノール独唱／島津 和^{しまづ かずへい}平
ピアノ伴奏／関崎 千^{せきざき ちなみ}奈美



奥村 美佳^{おく むら み か}ピアノコンサート

9/24日 14:00 ~ 15:30



場所／月の館大寄せの間

参加費／おとな 1,500円 ピアノ／奥村 美佳

奥村 美佳プロフィール

桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業。在学中よりポーランド国立ショパン音楽院教授カジミエーシュ・ギェルジョード師に師事、ディプロマを取得。ショパンに限らず幅広いレパートリーを持ち、国内各地やポーランドで演奏活動を行っている。

遠山 望^{とお やま のぞみ}

11/12日 13:30 ~ 15:30

サクソフォンリサイタル

場所／月の館大寄せの間 参加費／おとな 1,500円

サクソフォン／遠山 望 ピアノ／今井 千波（予定）

ゲスト マリンバ／川田佳奈子（予定）



第二十四回 月の里俳句入選作品

一般の部

佐藤文子選

特選 春灯や一戸一戸にある明日
満月のひかりを崩す水車かな
村田 守

秀逸 春一番ころりとはげる鍋の焦げ
一片の光となりて秋の蝶
池田 佐奈恵
生きながら落蟬として掃かれけり
高山 由羅
山崎 妙子

神田北童選

特選 結ひ方も教へ粽をふるまへり
また会はむ老いし鬘梳けば秋
深海 龍夫
老斑が農の勲章夏手套
酒井 和子
終章に五感のほてり秋灯下
中村 百仙
螢火やふはりと過去を運び来る
石原 孟
小日向 希生

佐藤文子選

特選 花火散り一人ぼっちの星一つ
たび人や雪がふっても歩いてる
共和小学校 五年生 石井 花音

秀逸 音楽会みんなが見てるおれのこと
ゆきだるまあたまがとれてたいへんだ
麻績小学校 四年生 飯森 横
木の精が色どり葉っぱみにまとう
共和小学校 一年生 みやがわまなみ
共和小学校 五年生 上條 凜心

神田北童選

特選 月あかりぼくをてらしてよんでいる
花火散り一人ぼっちの星一つ
麻績小学校 三年生 飯森 優人
共和小学校 五年生 石井 花音

秀逸 ほうせんかたねのたいほうとばそうか
ひまわりがにこにこわらう空を見て
共和小学校 三年生 飯つかとものり
せんぷうきしゃべってみたらうちゆうじん
麻績小学校 五年生 高澤 妃菜乃
坂井小学校 六年生 宮坂 妃乃

小林貴子選

特選 掌のかく水重きプールかな
蛇容れて叢戦ぐこともなし
小川 恵美子
面輪板子供の声の方を向き
山崎 妙子
狼の哭くか流水きしむ夜は
百瀬 信之
秋爽や波音つくる舞台裏
黒沢 孝子
北沢 雅子

水上孤城選

特選 生きながら落蟬として掃かれけり
敗戦忌靴紐かたく結びけり
山崎 妙子
帰省子を待つ手作りのおやきかな
永田 エセ子
春雪嶺いざ木落しの喇叭かな
萩久保 八重子
秋爽や波音つくる舞台袖
黒沢 孝子
北沢 雅子

小林貴子選

特選 くさのうえバツタがいるよばねみたい
台風や空から弓矢突き刺さる
共和小学校 一年生 ちのかずま

秀逸 動物がどんぐり探しパーティーだ
ほうせんかたねのたいほうとばそうか
麻績小学校 六年生 桐山 莉愛
黒部ダムほうりゅうすると滝のよう
共和小学校 三年生 飯つかとものり
共和小学校 四年生 宮下 泰征

水上孤城選

特選 夕暮れや揺れるすすきに雨落ちる
秋がくる日本が似合う秋がくる
共和小学校 五年生 遠山野乃佳
共和小学校 五年生 笠井 一

秀逸 さよならをいわずに消えた雪だるま
あめがふるいちにちあきがくる
麻績小学校 六年生 宮下 慧
あきがくるどんぐりがふるのしいな
共和小学校 一年生 おかざわひろ
共和小学校 一年生 はつちようこうが



耕月軒の降りつくばい

耕月軒の楓

小学生の部

信濃観月苑をご利用ください

広く文化活動や研修会、お茶会等にどうぞ
お問い合わせ・ご予約 TEL/FAX 0263-67-3933
メール kangetsu@vill.omi.nagano.jp

小間の茶室「清香亭」

■利用料金/1会 10,000 円



ギャラリー

展示発表の場としてご利用ください。

■利用料金/半日 5,000 円・1日 10,000 円



観月堂

お茶会、句会、月見の宴などにご利用ください。

■利用料金/半日 5,000 円・1日 10,000 円



大寄せの間

(2F 40畳和室) ステージ付

お茶会、お稽古、句会、研修会、コンサート会場などにご利用ください。

■利用料金/半日 3,000 円・1日 6,000 円



広間の茶室「耕月軒」

■利用料金/半日 5,000 円・1日 10,000 円

お抹茶 600 円
点心 2,000円(3名様より。要予約)

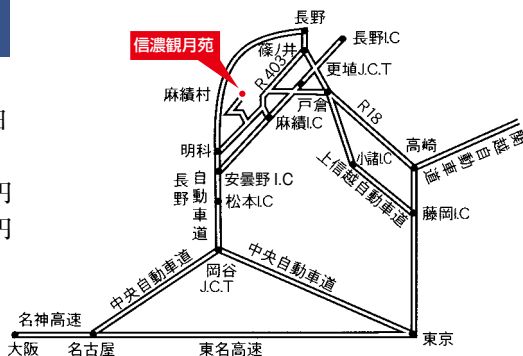
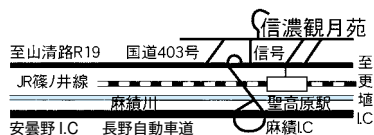
グランドピアノ KAWAI GM-10

■利用料金/半日 5,000 円・1日 10,000 円

信濃観月苑

長野県東筑摩郡麻績村〒399-7701
TEL/FAX (0263) 67-3933

開苑時間 午前9時～午後5時
休苑日 毎週火曜日(火曜祝祭日は開苑、水曜休苑)
入場料 個人 高校生以上 300 円
小人 150 円
団体 20名以上2割引



麻績村のホームページ <http://www.vill.omi.nagano.jp>

表紙/月見草(宵待草)と語るう月。
人も仲間に入れるだろうか。